



「てつがくカフェ (café philosophique)」とは、わたしたちが通常当たり前だと思っている事柄からいったん距離をとり、「そもそもそれって何なのか」といった遡行的な問いを投げかけ、ゆっくりとお茶を飲みながら、他の参加者との〈対話〉をとおして自分自身の考えを遅くすることの難しさや楽しさを経験するものです。1990年代に、フランスの哲学者マルク・ソーテが、パリのバステュー広場にあるカフェで始めたのがきっかけとされています。

てつがくカフェ 「医療とケアを問い直す」

テーマ

人の生老病死に深く関わる医療やケアの現場は、〈てつがく〉的な問いに溢れています。てつがくカフェ「医療とケアを問い直す」では、福井大学地域貢献事業の一環として、2016年より、医療やケアに纏わるテーマを、哲学的対話実践形式で問い直す場を拓いています。

「幸福とは」

「幸福」とは

「幸福のかたちは人それぞれ違う」、というようなフレーズは、友人との会話やテレビのコマーシャルなど、日常生活をおくるなかでよく耳にする言葉です。しかしながらその一方で、わたしたちは「お金があったほうが幸せ」「社会的地位が高い職業に就いたほうが幸せ」「結婚したほうが幸せ」などといった、「幸福」についてのイメージを共有しているかのようにも感じます。

この「幸福」を医療に引きつけて考えれば、それが“健康”や“五体満足”などといった言葉と深く関わってくるような気がします。疾病や障害を抱えることが必ずしも不幸せとはいえません。しかし、実際にそれらを抱える患者の立場からすれば、「どうして自分ばかりが辛い目に」と、怒りや悲しみ、無力感といった感情に襲われ、自分では「幸福」を感じにくいということもありえます。とはいえ、そもそも「幸福」と感じることと「幸福」であることは同じことなのでしょう。なかなか難しい問題です。

「幸福」とは何か。今年度最後となる「てつがくカフェ」では、誰もが求めている「幸福」について、参加者の皆さんとその本質に迫ります。

福井大学 医学科4年 渡邊 ゆうき

- ◆ 実施日:2019年3月17日(日)
- ◆ 時間:13時00分~15時30分
- ◆ 場所:大学連携センターFスクエア (福井駅東口アオッサ7階)

参加無料、事前申し込み不要、どなたでもご参加頂けます(小さなお子様も一緒に参加予定の方は、予めご連絡ください)。途中退出も可能です。

ファシリテータ:西村高宏(福井大学医学部 医学教育・倫理学分野)
ファシリテーション・グラフィック:近田真美子(福井医療大学 保健医療学部)
主催:てつがくカフェ「医療とケアを問い直す」(福井大学地域貢献事業)
共催:福井大学医学部附属教育支援センター、てつがくカフェ@ふくmedi,
問い合わせ先:ニシムラ(tanishi@u-fukui.ac.jp)

